

令和7年度第5回奈良市総合計画審議会会議録			
開催日時	令和8年3月23日(月) 午前10時から午前11時45分まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟 地下1階 地下1階会議室		
出席者	委員	伊藤忠通会長、大窪副会長、赤沢委員、安藤委員、伊藤隆司委員、大方委員、作間委員、原田委員、藤井委員、山下委員【計10人出席】	
	奈良市	鈴木副市長、教育長、企業局長、危機管理監、総合政策部次長、CIO、総務部長、法令遵守監察監、市民部長、市民部理事、福祉部長、子ども未来部長、子ども未来部理事、健康医療部次長、環境部長、観光経済部次長、都市整備部長、建設部長、消防局長、教育部長 【事務局】総合政策課職員	
開催形態	公開(傍聴人2人)	担当課	総合政策部総合政策課
議題 又は 案件	1 第4回のご意見に対する報告 2 奈良市第5次総合計画後期推進方針(案)パブリックコメントについて 3 第2回市民デジタルアンケート(案)について		
決定又は 取り纏め 事項	1 第4回審議会のご意見への対応状況について、事務局より説明を行った。 2 奈良市第5次総合計画後期推進方針(案)パブリックコメントについて審議を行った。 3 第2回市民デジタルアンケート(案)について審議を行った。		
<b>議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等</b>			
1 第4回のご意見に対する報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局より、第4回審議会では計15件のご意見をいただいた。記載の追記・修正を行った箇所については議題2において説明する。</li> <li>・ 大窪副会長より、【資料1】1番(森林の保全・活用)について、森林の活用というキーワードは文章としては記載しないのか。</li> <li>・ 事務局より、総合計画に具体的な表現は含めない方向であるが、活用については引き続き取組の検討を進める。</li> <li>・ 大窪副会長より、【資料1】3番(市民意見の反映)について、市民意見の施策への反映に関する対応表は、資料として保存するのみで、公表はしないのか。</li> <li>・ 事務局より、個別の意見全件については公表しないが、取り組んだ内容については今週中にホームページにて公表する予定である。</li> <li>・ 大窪副会長より、【資料1】5番(災害に関連する指標)について、災害用トイレ数を新たに指標として追加していただいたことはありがたい。避難スペースについて</li> </ul>			

は全国的に課題となっているが、物理的な制約から数値化が難しい、というのはなぜなのか。アメリカでは、施設の種類に応じて、最低限の数値化を行うことは一般化している。緊急の問題であるため、「中長期的な課題」としてではなく、喫緊の課題として検討いただきたい。

- ・ 大窪副会長より、【資料1】7番（景観の指標）について、やはり抑止力として指標を残しておく方が良いと感じる。環境が改善されたからといって本当に指標に含めなくて良いのかと感じている。
- ・ 大窪副会長より、【資料1】8番（無電柱化の目標値）について、すでに決まっている数字の単なる進捗の確認ではなく、意味のある数字にしていきたいと考えている。検討状況を教えていただきたい。
- ・ 大窪副会長より、【資料1】13番（情報発信に関する SNS 関連の指標）について、閲覧数やいいね数、リポスト数などを測ることは可能であると考えますが、具体的な数値化をしないのはなぜか。
- ・ 建設部長より、無電柱化に関する指標について、未着手の予定路線である 2400メートルを分母とすることは、今後用地買収を行う必要があること、無電柱化の工事自体がかなり先であることから、検討したものの、指標としては採用しなかった。
- ・ 大窪副会長より、既に数値として決まっていることを指標にしてもあまり意味がないのではないかと気になっている。引き続き議論いただきたい。
- ・ 危機管理監より、避難所の面積に関する国際標準（スフィア基準）がある。奈良市でいつまでに数字を達成することが実現可能かという点については検討中である。「中長期的」という表現は語弊があったかもしれないが、緊急の課題として認識している。ただ、どれだけのスペースが実際に避難者のために割り当てられるのかという調整が難しく、地域に滞留する避難者そのものを減らすという取組も検討を行っていることから、現時点で避難スペースの数値化は難しい。
- ・ 大窪副会長より、喫緊の課題であるため、中長期的な視点ではなく最優先で取り組んでいただきたい。整備率に対して、少なくとも5年後までにどの程度進めるかということは検討できると思われる。目標を掲げると取組は進むので、引き続き検討していただけるとありがたい。
- ・ 事務局より、SNSに関する指標については、分析や取組を進めるものの、指標化については難しいと担当部署から聞いている。
- ・ 大窪副会長より、商業マーケットでは一般的に使われている分析であり、数値化は容易であると思われる。検討いただきたい。

## 2 奈良市第5次総合計画後期推進方針（案）パブリックコメントについて

- ・ 事務局より、奈良市第5次総合計画後期推進方針（案）パブリックコメントおよび奈良市第5次総合計画後期推進方針（案）変更箇所について【資料2】【資料3】を基に説明。
- ・ 安藤委員より、【資料2】14ページの合計特殊出生率について、少子化が女性の問題のように読めてしまう点が気になった。未婚率や少子化は女性だけの問題ではな

いため、15～49歳の女性人口の減少、晩婚化、晩産化とそれ以降の文章で区切っていたきたい。

- ・ 安藤委員より、【資料2】34ページについて、少子高齢化や人口減少を理由に外国人材を受け入れているのではないのではないか。また、外国人の受入れに付随して、外国人の高齢化や家族滞在の増加といったことも生じていくのではないか。
- ・ 安藤委員より、【資料2】32ページについて、福祉分野でAIの活用は避けられないと感じている。業務効率化に向けた活用のみならず、暮らしを守る積極的な技術の開発や活用という点が前面に出ると良いと感じた。
- ・ 安藤委員より、【資料3】3番の「性的マイノリティ」について、「性別」という表現が気になる。そもそも性別を感じない方もいるため、「性」という表現の方が望ましい。また、「どの性別の人を好きになるか」という記載があるが、好きにならない人もいる。関連団体が出している定義等を参照の上、性別などの二項対立にとられない表現を検討いただきたい。
- ・ 事務局より、【資料2】14ページの出生率については、ご指摘の通り誤解を招きかねないため、文章を区切って表現することとする。【資料2】34ページのダイバーシティについては、労働力の不足が外国人材の受け入れの背景となっているという趣旨であったが、誤解を招かないように表現を検討する。【資料2】32ページのDXについては、担当課と調整の上、追記等を検討する。【資料3】3番の性的マイノリティについては、担当課と調整の上、定義を参照する等して表現の変更を検討する。
- ・ CIOより、AIの活用に関して、奈良市としては、人が行う必要のないバックヤードの作業にAIを活用し、生まれた余力を福祉など人と人の関係が重要な部分に充てることを目指している。ご指摘の通り、AIが人と接する最前線に立つこともあると認識しているが、すべてをAIに任せる段階には至っていないと考えている。そのため福祉への活用を全面に出している表現とはなっておらず、事務的な作業をAIに任せるといった趣旨の記載となっている。
- ・ 作間委員より、【資料2】について、注釈を示す数字については括弧を付けた方が見やすいのではないか、
- ・ 作間委員より、【資料2】108ページに記載の「災害による死者数」の目標値0が指標になるのかと気になっている。死者数を初めから書くことはできないが、目標値が0ならば書かなくても良いのではないか。
- ・ 作間委員より、【資料2】119～120ページについて、次年度4月から自転車で青切符の制度が導入されることもあり、自転車の安全対策や自転車道の整備に関する記載を含めた方が良いのではないか。
- ・ 事務局より、注釈を示す数字については見やすい表記を検討する。
- ・ 危機管理監より、「災害による死者数」に関して、地震よりも発生の蓋然性が高い水害などについて、まずは人命を救助し死者を出さないことが最優先の対策であるという姿勢を明確にしたいため、指標として記載している。
- ・ 都市整備部長より、自転車道の整備は重要なテーマであり、新たに作る道路につい

ては整備できるが、既存の道路については、現時点では今後検討していく課題であると認識している。

- ・ 伊藤忠通会長より、課題として挙げておくだけでも良いのではないか。文章としては明文化しないのか。
- ・ 都市整備部長より、今後の社会情勢を見据えながら検討すべき重要課題であると認識している。いただいたご意見を踏まえて再度検討することとする。
- ・ 作間委員より、可能であれば明文化していただけるとありがたい。
- ・ 作間委員より、市として災害による死者数0を目指していることは理解している。ただ、「現状と課題」や「施策の方向性」の部分に減災・防災への言及があるため、あえて指標として死者数0を記載する必要があるのか気になった。
- ・ 伊藤忠通会長より、先ほど危機管理監より説明があったが、未然に防ぐことができる災害では死者数を0とするという意味か。
- ・ 危機管理監より、発生の蓋然性が低く被害を未然に防ぐことが難しい大規模災害よりも、洪水や土砂崩れなどの蓋然性の高い災害でまず死者数を0にするという点が災害対策本部の最大の使命である。その姿勢を崩すべきではないと考えている。
- ・ 伊藤忠通会長より、今ご説明いただいた内容を記載していただければ誤解が無い。
- ・ 原田委員より、全体を通じて、市民の実感に基づいた指標となっていないのではないかと感じた。例えば防災であれば、災害用備蓄食糧数ではなく、避難所の満足度などが考えられる。市民の実感を指標とすることは難しいのか。
- ・ 原田委員より、【資料2】の重点分野4点のうち特に重視している分野はあるか。もしくは並列で重要なのか。
- ・ 事務局より、指標の設定については、現実的に測定可能で進捗を測ることのできる指標としている。より良い指標についての追求は今後も続けたい。また、市民の実感に関しては、2年に1度、市民意識調査を実施し、個々の指標ではないが、施策単位で重要度や満足度を調査している。
- ・ 事務局より、重点分野4点は、並列なものとして全て重要である。奈良市の標語にもある『わたしたち』のまちに関連して「協働」・「共創」の理念をすべての分野に落とし込みながら取組を進めたいと考えている。
- ・ 原田委員より、人的資源、資金などの配分なども4分野並列で行うのか。
- ・ 事務局より、災害、感染症など個別の事象があるため現時点で一概に配分について申し上げることは難しい。
- ・ 大方委員より、【資料2】67ページについて、保育ニーズの増加は母親の就労率の上昇だけが必ずしも原因ではないため「母親」に限定しない方がよいのではないか。また、「親」という表現も出てくるため、全体でどのような表現とするのか検討いただきたい。さらに、「子ども」「子どもたち」などという表現が混在している。表現を統一するか、複数の表現を異なる意味で使うのか、確認をお願いしたい。
- ・ 大方委員より、【資料2】67ページでは「乳幼児期、学齢期における保育及び教育」という表現があり、68ページでは「幼児教育・保育の需要に応じて」と「教

- 育・保育ニーズ」が混在している。基本的には切れ目のない支援は0歳からであると思われるため、表現の統一について確認いただきたい。
- ・ 大方委員より、【資料2】67ページの「仕事と子育ての両立支援などライフステージに応じた切れ目のない支援」は、学校教育に繋がると、18歳までの子どもも含めたすべての子どもの切れ目のない教育的な支援ということになる。69、70ページの学校教育に関する記載において、そのような切れ目のない支援の視点を含めていただくとよいのではないかと。就学前と小学校、小学校と中学校、中学校と高校の架け橋については課題として指摘されていることである。
  - ・ 事務局より、「母親」「親」等の表記は統一することとする。「子ども」等の表記については担当課に確認の上、必要に応じて修正する。
  - ・ 教育部長より、表現については全体を見て統一する。切れ目のない支援や学校教育についても表現の統一を検討する。
  - ・ 山下委員より、全体を通して「文化」という言葉が見えない。例えば重点分野3「福祉・健康長寿」に「文化を活用する」という趣旨の記載を入れたり、タイトルに「文化」を併記して入れたりすることができないか。単に健康であればよいのではなく、文化的な生活の保障という点も意識して重点分野3に書き添えていただくと良い。奈良市にとっても良い社会につながると思われる。
  - ・ 事務局より、文化は分野を横断するテーマであると認識している。重点分野2に記載しているように、「共創」の取組の中で地域の文化資源の活用や他分野との連携に取り組むたいと考えている。表現については、引き続き検討する。
  - ・ 安藤委員より、【資料2】115ページについて責任が「ありますが」ではなく責任が「あり」で良いのではないかと。また、116ページの指標について「アダプト」ではなく「アドプト」が正しいと思われるため、修正いただきたい。
  - ・ 安藤委員より、【資料2】66ページの「この地域で今後も子育てしていきたいと思う親の割合」や70ページ「主体的な学びを実現できる子どもの割合」、72ページ「時間的・精神的な辛さはそれほどなく、やりがいを感じる教員の割合」などは感覚的であり、調査対象の変化によって変動が大きいと思われるが、指標として含まれていて良いのか。
  - ・ 事務局より、主観指標に関しては把握する手法が限られていることもあり適切な指標設定が難しい。今後継続して取り組む中でより良い指標があれば設定したい。「アドプト」等の文言については担当課に確認の上、誤りのないように修正する。
  - ・ 安藤委員より、結果の数値が変わりうるものについては、どのような調査により把握している指標なのか分かる記載があれば良いのではないかと。
  - ・ 事務局より、定性的な指標は残さざるを得ないと考えている。個別計画も含め、可能な限り適切な指標を設定できるよう今後も検討を進める。指標の中には個別計画策定時の各部局によるアンケートや市民意識調査で割合を把握しているものもある。どのような調査等から把握している割合なのか分かる表現を記載したい。
  - ・ 大窪副会長より、【資料2】9ページの奈良から日本文化を世界に発信する取組として、最新の取組が2016年のものになっている点が気になる。この部分のみなら

ず全体に通じることではあるが、奈良市での新しい取組をアピールするべきではないか。

- ・ 大窪副会長より、【資料2】34ページのダイバーシティに関して、「ダイバーシティの推進と包括的な環境づくり」とあるが、近年は「公平性」を表す「E」を含めた「DE&I」が用いられている。「公平性」というキーワードも含めた記載が良いのではないか。
- ・ 大窪副会長より、【資料2】36ページについて、気候変動により大雨のみならず、渇水や乾燥、山火事も発生している。これら両極の事象をいずれも記載した方が、気候変動の正確な認識として表現されるのではないか。
- ・ 大窪副会長より、文化というキーワードをもう少し含めることができないかと気になっている。【資料2】重点分野3で「心も」元気に、という記載がある。このような観点からは「趣味や学び」だけでなく「趣味や学び、奈良ならではの歴史や文化に触れて」といった表現にすると、「心」の元気にうまくつながり、奈良市の特徴を活かした記載にもなるのではないか。
- ・ 事務局より、具体的なお指摘をいただいたため、参考にして表現を検討する。
- ・ 作間委員より、まちづくりに関して最も困っていることは人材不足や担い手不足である。第4章では防災や環境に関する記載があるが、人材不足や担い手不足といった点も踏まえ、まちづくりについて記載いただきたい。また、「第5章 しくみづくり」の市民参画・協働は非常に重要なテーマである。市民参画・協働を重点分野に含めていただけるとありがたい。さらに、【資料2】51ページや61～62ページの図について「まちの方向性」が縦割りに見えるが、これらを横断するのは「第5章 しくみづくり」である。その点が伝わるような図にしていきたい。
- ・ 事務局より、「第5章 しくみづくり」は全ての章に関わる。また、各分野は連携して取り組んでいくものである。協働の理念はすべての取組に関わっていくため、表現方法については引き続き検討する。
- ・ 大方委員より、【資料2】70ページの指標「主体的な学びを実現できる子どもの割合」「屋上防水改修を実施した施設数」は中身が極端に異なる指標が並んでいる印象を受ける。老朽化は問題であるが、載せるべき指標なのかやや疑問である。施策の方向性にある「子どもたちのアイデンティティの確立」に向け、主体的な学びを実現できる子どもの割合を増やす、というように、目標と連動する指標とした方がよいのではないか。また、施策の方向性として「学力の向上」ではなく、自ら考え判断し表現する力という「学力の3要素の向上」という表現が良いのではないか。
- ・ 教育部長より、建物に関する指標については、施策の方向性「③学習環境の充実」に長寿命化が関連するため設定している。1人1台端末をどのように活用していくかという点も今後検討が必要である。学力学習状況調査の結果など、違う指標に差し替える可能性について検討する。また、「主体的な学びを実現できる子どもの割合」という指標については、自ら進んで学びに向かうという、内発的な指標として継続して測っているものである。
- ・ 原田委員より、施策のターゲットを明らかにすることで、誰に選ばれるまちになっ

ていくのかという点が明確になるのではないか。例えば、活気に溢れ挑戦ができる奈良市にするために若者の力が必要であり、そのために安心して暮らせる基盤が必要なので防災にしっかり取り組むというように、住みたいまちにするための一貫した視点があると良いのではないか。

- ・ 事務局より、総合計画は奈良市の将来像を作る全体計画のため、個別のターゲットを絞ることは難しい。他方、個別計画においてはターゲットを絞って取り組んでいる。第5次総合計画については、5年前に設定した全体像をもとに進めていくが、第6次総合計画を見据えて、全体として目指す方向を意識しながら取組を進める必要があると考えている。
- ・ 伊藤忠通会長より、指標の根拠や何の調査に基づくものなのかを明記すると、市民の納得感が得られるのではないかと懸念している。補足可能であれば記載いただきたい。
- ・ 作間委員より、【資料2】51ページ、61～62ページの施策の体系図について、「まちの方向性」や「第5章 しくみづくり」を示す四角がそれぞれつながっていない。それぞれの四角をつなげ、「第5章 しくみづくり」から各章へ矢印を書くこととそれぞれの分野が連携していることが分かりやすいのではないかと懸念している。
- ・ 事務局より、施策体系の図については引き続き検討する。

### 3 第2回市民デジタルアンケート（案）について

- ・ 事務局より、今後のスケジュール及び第2回市民デジタルアンケート（案）について【資料4】を基に説明。
- ・ 大窪副会長より、前回よりもアンケートの回収率が上がるようにしていただきたいと思う。
- ・ 大窪副会長より、4つの重点分野の優先順位を答えることは非常に難しいのではないかと懸念している。今回の審議会では、4分野それぞれが独立して重要であるという議論になっていたため、一部齟齬が出るのではないかと懸念している。
- ・ 事務局より、第1回アンケートに基づいて作った重点分野について、自由なご意見いただくことが趣旨であり、市民がどの分野に関心を持っているかを把握したいと考えている。優先順位に関する項目を設けることについては本日の議論と矛盾するため、引き続き検討する。
- ・ 大窪副会長より、重点分野の優先順位を聞くことはアンケートの趣旨に反しているように感じる。関心度を回答するのも難しいかもしれない。各分野への共感を聞くことはシンプルで施策に生かしやすいと思われる。
- ・ 山下委員より、4つの柱以外に漏れているものが無いかという点も意見を聞くべきではないかと懸念している。
- ・ 事務局より、重点分野の共感点を調べるとともに追加的な視点を調べることも本アンケートの目的としている。
- ・ 伊藤忠通会長より、アンケート実施にあたってはビジュアル資料が重要であるが、どのように考えているか。
- ・ 事務局より、文章よりも視覚的、直感的に総合計画の概要が伝わる資料としたいと懸念している。

<p>考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伊藤忠通会長より、【資料 2】 61～62 ページにある施策の体系図をポンチ絵にするようなイメージか。</li> <li>・ 事務局より、体系も分かりやすく伝わるようにしたいと考えている。1 枚の資料に収まらない情報についてはリンクで飛ぶことができるようにする。</li> <li>・ 安藤委員より、ビジュアル化は非常に大事である。グラフィック専門の方にも協力いただきながら、暮らしをイメージすることができるようなビジュアルを、力を入れて作成するべきではないか。</li> <li>・ 事務局より、専門の方への依頼は時間と予算の関係で難しい。</li> <li>・ 山下委員より、奈良市で生活していくことがストーリーとして伝わるビジュアルが効果的かと思う。</li> <li>・ 伊藤忠通会長より、本アンケートのねらいは、設定した 4 つの重点項目の関心度を再確認することであるということか。</li> <li>・ 事務局より、ご認識の通りである。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以 上</p>	
資 料	<p>【資料 1】 奈良市総合計画審議会第 4 回会議における委員意見への回答</p> <p>【資料 2】 奈良市第 5 次総合計画後期推進方針パブリックコメント（案）</p> <p>【資料 3】 第 5 次総合計画後期推進方針（案）変更箇所一覧表</p> <p>【資料 4】 今後のスケジュール及び第 2 回市民デジタルアンケート（案）について</p>